平成 26 年度 教育委員会の主な活動

■ 教育委員協議会

教育行政におけるさまざまな課題の研究や情報収集、喫緊の課題への対応・協議などを目的に、教育委員による協議会を行っています。

平成26年度は、主に、平成27年度から34年度までの8年間に亘る静岡市の教育行政の姿を描く「第2期静岡市教育振興基本計画」の策定のため、様々な視点からの協議を行っています。

・第1回（ 4月15日）　・第2回（ 4月21日）　・第3回（ 5月 2日）　・第4回（ 5月15日）
・第5回（ 5月21日）　・第6回（ 6月 4日）　・第7回（ 7月 2日）　・第8回（ 7月 9日）
・第9回（ 7月11日）　・第10回（ 7月17日）　・第11回(7月25日)　・第12回（ 7月28日）
・第13回（ 8月 4日）　・第14回（ 8月12日）　・第15回(8月25日)　・第16回（ 9月26日）
・第17回(10月 8日)　・第18回(10月17日)　・第19回(10月30日)　・第20回(11月12日)
・第21回(11月20日)　・第22回(12月17日)　・第23回（ 1月 9日）　・第24回（ 1月27日）
・第25回（ 2月 3日）　・第26回（ 2月10日）　・第27回（ 2月19日）　・第28回（ 3月 3日）
・第29回（ 3月10日）　・第30回(3月27日)

■ 意見交換

静岡市では、現在の第1期静岡市教育振興基本計画の施策の進捗状況や社会情勢の変化等を踏まえ、平成27年度からスタートする第2期静岡市教育振興基本計画を策定しています。静岡市の子どもたちに必要な施策がきちんと盛り込まれたよい計画を策定するために、様々な関係者と意見交換を行いました。

1 学校・家庭・地域の連携について

子どもたちの教育は、学校や教員のみで行うのではなく、学校が家庭や地域と共に考え、力を合わせて取り組んでいく必要があります。「学校と家庭、地域の連携」をテーマに、関係する方々との意見交換を行いました。

① 静岡市校長会との意見交換 （5月28日：静岡市役所 清水庁舎にて）

教育委員会は学校現場の実態や課題を知り、学校現場は教育行政の施策や教育委員会の思いを理解して、静岡市の子どもたちに必要な教育施策を追求することが大切です。

校長会からは、学校応援団などの施策を通じて家庭や地域の協力を得て取組んでいることとして、

「安全対策（防災や防犯、交通安全）」、「あいさつ運動」、「不登校傾向にある子どもへの支援」などが挙げられました。逆に、学校が地域行事に協力する取組も紹介されました。連携については、効果だけでなく、課題についても話し合いました。また、学校現場における大きな課題として、特別な支援を要する子どもへの指導や教員の育成、教員の多忙感、学力向上への取組などが挙げられました。

教育委員会からは、開かれた学校づくりや地域との連携について、各学校の校長のリーダーシップの重要性や、地域の人材発掘の必要性が語られました。

【　静岡市校長会との意見交換会　】

② 静岡市PTA連絡協議会との意見交換　（5月28日：静岡市役所　清水庁舎にて）

連携は、学校が必要と考える協力を家庭や地域に求めるだけではなく、双方向の協力が重要です。家庭や地域が学校にどんなことを期待しているのか、更には、家庭や地域が学校運営にどう関わっていくかについて、保護者の代表の方との意見交換を行いました。

保護者からは、学校に気軽に質問や相談ができる環境づくりや学校での子どもの情報を提供するなど、開かれた学校づくりへの期待が語られました。また、単に「学力」をつけるだけでなく、変化する社会を「生き抜く力」を身に付けさせる教育を求めるという声もありました。地域との連携については、PTA組織にとどまらず、そのOBが学校活動に協力している取組も紹介されました。

また、教員の多忙化については、その一因ともされる静岡式35人学級を今後も続けていくべきなのかを改めて検討してほしいとの声もありました。課題の解決に取り組むには連携が欠かせないことや、こうした意見交換を通じて互いの心の距離を縮めていくことの大切さを確認しました。

③ 学校応援団地域本部コーディネータ・学校運営協議準備会委員との意見交換
（6月9日：静岡市役所 清水庁舎）

静岡市では、学校が必要とする協力を地域に求め、学校活動を行う「学校応援団」を推進していますが、更に進んだ地域連携の仕組みとして、地域や保護者の声を学校の運営に活かし、学校・家庭・地域がそれぞれの役割と責任を果たしながら、共に子どもたちを育てる「コミュニティ・スクール（学校運営協議会）」の導入を研究しています。この日は、学校応援団の主軸となって活動している地域本部コーディネータや、モデル校として静岡市のコミュニティ・スクールの研究に取り組む清水江尻小学校の準備会委員との意見交換を行いました。

学校応援団やコミュニティ・スクールの活動を展開していくには、人と人とのつながりや人材の確保、また、そのための情報の発信や収集が欠かせないことなどを話し合いました。また、人が入れ替わっても活動を続けられる組織を作ることが重要だと、改めて確認しました。

【学校応援団地域本部コーディネータ・学校運営協議準備会委員との意見交換会 】

2 学識経験者との意見交換

常葉大学大学院 初等教育高度実践研究科 教授 安藤 雅之 氏
静岡大学大学院教育学研究科 教授 武井 敦史 氏

実効性の高い教育振興基本計画を策定していくために、学識経験者の知見を得て進めることが必要と

考え、計画全体に関する意見を伺いました。

① 第１回 （6月30日：静岡市役所 静岡庁舎）

初回の意見交換会では、まず、第2期静岡市教育振興基本計画のあり方や計画案全体についての御意見を伺いました。

静岡大学の武井教授からは、8年間の計画期間の中で、必ずまた教育委員会制度改革があると想定し、学校教育を取り巻く事情も変化することを考えて、変化に対応し得る計画を策定する必要があるという御意見がありました。常葉大学の安藤教授からは、計画の策定に当たっては、教育だけを考えるのでなく、静岡市の人づくりやまちづくりを意識する必要があることや、不易と流行のバランスを見据えながら、目標を明確に定めつつも変化を受け止めていく計画にすべきという御意見をいただきました。

また、首長が策定する大綱については、教育振興基本計画と同じく教育基本法第17条を根拠とするものであるため、計画が大綱を兼ねるのが最もわかりやすいので、計画を包括的なものにする必要があるとのことでした。

② 第2回 （9月3日：静岡市役所 清水庁舎）

第2期静岡市教育振興基本計画における重点取組や成果指標の設定方法、点検・評価のあり方などについて、具体的な意見交換を行いました。グローバル化や環境など地球規模の視点を取り入れて計画を考えることを話し合いました。

学識経験者からは、国が掲げる「変化」に対応する施策が重要、指標の設定や評価は数値には表れないところも大事にすべきなどの御意見をいただきました。

【 学識経験者との意見交換会（第2回） 】

③ 第3回 （11月4日：静岡市役所 静岡庁舎）

第2期静岡市教育振興基本計画の概要図と計画の本書の最新案について、施策毎の事業の分類やボリューム、計画全体のバランスから、細かな表現や言葉の意味合いに至るまで、掘り下げての意

見交換を行いました。

学識経験者からは、今後は、教員の資質の向上や優秀な教員の確保が静岡市の教育の質の向上の鍵になるという御意見や、教員は研修を受けるだけでなく、自ら学び続ける姿勢を持ち、教育委員会はその環境を整えることが重要との御意見がありました。

今後もさらに活発な議論を積み重ねて、静岡市の明るい将来を描く計画を策定しようという思いを、改めて確認しました。

3　市長との意見交換

教育行政が、他の行政分野とも協調して施策にあたるためには、市長と教育委員会が、情報を共有し、互いの考えを語り合う風通しのよい関係でいることが重要です。第2期教育振興基本計画を主なテーマとして、2回の意見交換を行いました。

①　第1回　（7月24日：静岡市役所　静岡庁舎にて）

1回目の意見交換会では、策定中の第3次静岡市総合計画と第2期静岡市教育振興基本計画の整合性等について確認するとともに、市長から教育行政に関する思いを伺いました。市長からは、課題解決には「現地現場主義」で取り組むことや、2期の計画には「静岡市らしさ」を打ち出してほしいこと、また、地域連携については是非推進してほしいことなどが要望され、教育に力を入れていきたいという思いが語られました。

②　第2回　（10月17日：静岡市役所　静岡庁舎にて）

第2期静岡市教育振興基本計画と教育委員会制度改革について、意見交換を行いました。

まず、計画については、教員の資質の向上や多忙の解消やシチズンシップ教育、グローバル教育などについて、意見を交わしました。

教育委員会制度改革については、新たに策定する第2期静岡市教育振興基本計画を大綱と見なすことについての協議や、首長が教育委員会を招集して行う「総合教育会議」に関する市長の考えを伺いました。

４　大学院との意見交換 （９月８日　：　静岡大学大学院にて）

第2期静岡市教育振興基本計画についてご指導いただいている常葉大学大学院の安藤雅之教授と静岡大学大学院の武井敦史教授にお力添えをいただき、各大学院の教員や院生の皆さんとの意見交換会を実施しました。これは、昨年度まで実施していた静岡大学大学院との意見交換会に常葉大学にも加わっていただき、改めて「静岡市教育懇話会」として実施したものです。

静岡大学と常葉大学の両大学院には、現役の教員が派遣されています。一般教員の生きた声や現場の本音を伺うため、また、現場の教員や教員候補の院生の方に、教育行政についての理解をより深めて現場での課題改善につなげていただきたいと考えています。今回は、「学力向上」、「情報モラル」、「地域連携・学校間連携」の3つのテーマについて、活発な意見を交わしました。

武井教授からは、発想を広げていろいろな可能性を探る拡散的思考による討議が行われたことを評価していただきました。安藤教授は、意見交換を自分の力の向上に役立てて、チームとして働ける力を育ててほしいとと大学院生に呼びかけられました。

【 静岡市教育懇話会 】
静岡大学大学院・常葉大学大学院
との意見交換

■教育委員会の事務についての点検と評価

地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理や執行の状況について点検と評価を行うこととされています。静岡市教育委員会は、静岡市教育振興基本計画から選定した42の事業について、取組み内容を点検・評価し、課題の洗い出しや次年度の目標設定を行っています。

８月１２日には、点検・評価のやり方や報告書の内容について、学識経験者の知見を得て進めるために、２名の大学教授をお招きして御意見をいただきました。学識経験者のお二人からは、点検評価した内容を現場の取組に活かすこと重要性や、より効果の高い点検・評価のあり方などについて、多くの助言をいただきました。

【ご意見をいただいた学識経験者】

常葉大学大学院 初等教育高度実践研究科 教授 安藤 雅之 氏

静岡大学大学院教育学研究科 教授 武井 敦史 氏

【 点検評価に関する学識経験者との意見交換会 】

■学校現場の視察

・市立清水桜が丘高等学校体育館・清水岡生涯学習交流館の複合施設の整備状況を視察（８月１２日）

新たに整備している市立清水桜が丘高等学校の体育館（清水岡生涯学習交流館との合築）を視察しました。

屋上プール以外は整備が完了しており、新しく明るい体育館で、生徒たちが部活動に熱心に取り組んでいました。広々とした視聴覚ホールは生涯学習交流館との共用施設であり、体育館と交流館のどちらからも入ることができます。地域の方と学校の連携と交流がますます活発になり、地域とともにある学校づくり

が一層進んでいくことを期待します。

【　市立桜が丘高等学校体育館・清水岡生涯学習交流館の複合施設の視察　】

・小・中学校の適正配置と小中一貫教育研究のための学校視察

少子化をはじめとする社会の変化など、子どもたちを取り巻く環境は刻々と変化していますが、子どもたちにとって良好な教育環境を確保し、充実した学校教育を実現するために、学校の規模や配置の適正化は大変重要です。また、国では、小中一貫校の制度化が進むなど、学校教育のあり方もまた変革のときを迎えています。

こうした中、市内の小・中学校、特に中山間地の小規模校が抱える課題に対応するために、学校を訪問し、子どもたちの様子を参観するとともに、先生方をはじめ、保護者や地域の方々との意見交換を行いました。各学校では、少人数による良さを生かしたきめ細やかな指導が行われるとともに、近隣校や市街地の学校との交流などにより、子どもたちに多人数の環境を経験をさせるなど、工夫した取組がなされていました。

どの学校も地域の方から深く愛され、温かく見守られていることが感じられました。

①　大河内小学校・中学校　（11月10日）

市の中心地から車で1時間ほどの中山間地に位置する大河内小学校と大河内中学校を訪問しました。

小学校と中学校は同じ敷地の中にあります。地域の方に御指導いただきながら、地域の特産品であるお茶を学校茶園で育て、お茶摘みも合同で行っています。小学校と中学校の子どもたちや教職員は、日常的に連携・交流しながら、明るくのびのびと学校活動を展開しています。

大河内小学校では、小さな学校の特性を生かして、異なる学年間の子どもたちが活発に交流し、全校道徳などにも取り組んでいます。

大河内中学校では、お茶づくりのほか、学区内を流れる安倍川に生息するアマゴの人工ふ化にも全校で取り組んでおり、「郷土を学ぶ、郷土で学ぶ、郷土に学ぶ」活動が活発に行われています。

【　大河内小学校の授業　】

【　大河内中学校　数学の授業　】

② 梅ケ島小学校・中学校 （11月10日）

①の大河内小学校・中学校から更に車で30分ほど山間地に向かって進んでいくと、市の中心地から40kmほどのところに梅ケ島小学校・梅ケ島中学校があります。

梅ケ島小学校と梅ケ島中学校は、静岡市の公立学校でただ一つ、同じ校舎の中に小学校と中学校が共存する学校です。1階は小中共用のフロアとして、給食室や保健室が置かれ、2階には小学校、3階と4階に中学校の教室が配置されています。同じ校舎内に位置するメリットを最大限に生かして、小中の活発な交流が図られています。

校舎入口の手前には、地域の特産品の一つであるわさび田が作られ、梅ケ島の地域らしさが感じられました。

梅ケ島小学校では、全校の子どもたちと一緒に給食をいただきました。子どもたちはみんなで協力して、手際よく配膳や後片づけをしていました。

梅ケ島中学校では、子どもたちが、地域の方に御指導いただきながら、特産品のわさびやその茎を使ったわさび漬けづくりに取り組んでいました。

【梅ケ島小学校の子どもたちと給食をいただく】

【梅ケ島中学校　生徒たちのわさび漬けづくり】

③ 大川小学校・中学校 （12月12日）

市街地から車で約45分、周囲を1000m級の山々に囲まれ、安倍川の最も大きな支流として鮎釣りで知られる藁科川が流れる豊かな自然の中に、大川小学校と大川中学校は位置します。

小学校と中学校は同じ敷地の中にあります。芝生化された校庭で行う「大川大運動会」では、丸太の輪切り競技「与作」など、杉や檜が特産のこの地域らしい競技が取り入れられており、地域に支えられ、地域と共にある行事となっています。お茶摘みも、小学校と中学校合同で、保護者や地域の方と一緒に取り組んでいます。

大川小学校のランチルームには、全校生徒が一緒に食べる給食の配膳方法が掲出され、上級生が小さな学年の子どもに配慮しながら、皆で協力して配膳ができるように工夫されていました。また、地域参観会に向けた「大川情報局」の練習など、楽しい取組が見られました。

大川中学校では、この学校にたった1人の3年生が英語劇の練習に生き生きと取り組んでいる姿に、勇気と元気をもらいました。他の授業でも、生徒が互いの作品を批評し合うなど、学校目標である「よさを認め、共に高め合う生徒」に向けた取組みが感じられました。

【大川小学校　地域参観会の練習】

【大川中学校　英語劇の練習】

④ 井川小学校・中学校 （12月25日）

市の中心地から車で約2時間、距離にして約60kmの南アルプスの麓に、井川小学校と井川中学校があります。井川中学校は、静岡市で最も少人数の中学校です。

南アルプスの表玄関とも言える井川地域は、山梨県や長野県とも接し、静岡市の総面積の40%を占める広さを誇り、大自然に抱かれた豊かな山里です。広さゆえに通学距離も大変長く、子どもたちはスクールバスで通学しています。特に冬季は積雪等によって中心地との行き来が困難であるなど、豊かな自然と共に課題も抱えています。

訪問した日は、既に子どもたちは冬休みに入っていましたが、意見交換会にはたくさんの保護者や地域の方が集まってくださり、小中一貫校化や今後の学校のあり方について、真剣に意見を交わしました。

井川地域の子どもたちのために、中期・長期の視点で学校のあり方を考え、学校教育の環境を整えていくことの重要性を、改めて確認しました。

【井川中学校 通学路危険個所の視察】

【学校、地域、保護者の皆さんとの意見交換】

■静岡県教育委員会・浜松市教育委員会との連携

意見交換会 （10月27日 ： 浜松市教育庁舎）

様々な教育課題に取り組むには、他の教育委員会とも情報を共有し、連携することが重要です。県内の市町の教育委員会を指導する立場にある静岡県教育委員会と、同じ指定都市として他の市町の牽引役を担う浜松市教育委員会とは、日頃から様々な業務を通じて連携を図っています。

今年も、教育委員会委員が一同に会する連携として、意見交換を行いました。今年度のテーマは、「教職員の不祥事への教育委員会の取組」と「全国学力・学習状況調査への対応」の2つです。各教育長からそれぞれの取組を紹介し合って情報を共有し、課題への対応について真剣に意見を交わしました。不祥事対策については、教員の資質の向上はもとより、キャリアプランづくりの必要性や多忙化や多忙感との関係性についても話し合いました。また、全国学力・学習状況調査については、学力向上に向けた適正な活用のし方を話し合うとともに、昨年度来の大きな課題となっている結果公表のあり方についても、子どもの気持ちに寄り添う適正な公表のあり方とは何かについて、活発に討議しました。

【静岡県・浜松市・静岡市の教育委員会　全員が会した意見交換】

■行事の参観

・清水区小・中学校なかよし体育大会を参観（10月3日　清水総合運動場）

　清水区の小・中学校の特別支援学級の子どもたちが一堂に会して行う体育大会を参観しました。24校から集まった子どもたちは、小中学校混合で赤白2チームに分かれて競い合います。最後まであきらめずに競技に取組み、元気いっぱいの応援合戦をしました。

　この大会は、関係校の校長先生全員が、スタート係や放送係、ゴール後の誘導係などの実働部隊となって、運営を支えておられます。

　教育委員は、開会式から参加して、子どもたちと一緒に準備運動をしました。そして、力いっぱい競技に取り組む子どもたちに、大きな声援を送りました。

【清水区小・中学校　なかよし体育大会】

・静岡市立小中学校音楽学習交流会を参観　（11月18日・19日　市民文化会館）

　静岡市立小中学校音楽学習交流会は、発表や交流を通じて、子どもたちの音楽を愛好する心を育て、教員の指導力を向上させて、静岡市の音楽教育の振興を図ることを目的に、毎年行っているものです。

　教員や子どもたちが日頃の練習の成果を発揮し、生き生きと音楽を演奏する姿を、今年も参観しました。

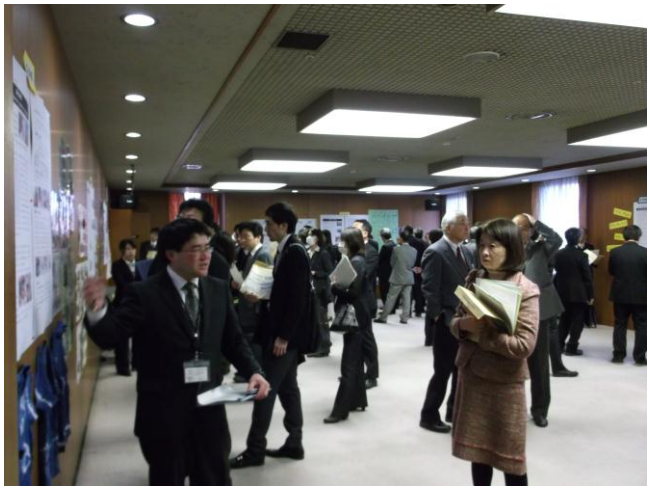
・静岡市コミュニティ・スクール研究推進フォーラムに参加

（1月23日　清水庁舎ふれあいホールほか）

静岡市教育委員会では、地域とともにある学校づくりの推進に資するため、学校応援団推進事業やコミュニティ・スクール研究事業により、学校が地域と一体となって子どもたちを育む体制の構築に取り組んでいます。

コミュニティ・スクール研究事業においては、平成 25 年度に清水江尻小学校を研究校に指定し、今年度には文部科学省補助事業として、さらに研究を継続しているところです。

1月 23 日（金）に、清水ふれあいホールを会場に、清水江尻小学校における2年間の実践研究の内容及び成果を発表する場として、「静岡市コミュニティ・スクール研究推進フォーラム」を開催しました。



このフォーラムには、教育委員をはじめ、市内全小中学校の学校関係者、静岡市議会議員の方々、静岡市自治会連合会の方々、市内大学関係者等、総勢 260 名もの方々の参加がありました。

基調講演では、常葉大学教職大学院・小松郁夫教授より基調講演では、「地域住民参画によるこれからの学校づくり」と題した御講話をいただきました。

ポスターセッションでは、学習支援や活動支援、環境安全支援を中心に、2年間の実践研究の取組とその成果について発表があり、参加された方々も質問をしながら大変熱心に聞いていました。

最後に行ったパネル・ディスカッションでは、清水江尻小学校学校運営協議準備会の委員の方々にご登壇いただき、これまでの取組と、今後の学校と家庭・地域との効果的な連携の在り方について発表していただきました。

参加した多くの者がこれからの学校は、保護者・地域住民とのより一層の連携が必要であるということを再認識することができ、大変有意義なフォーラムとなりました。